

ハートキャッチヤン
キユア

スナイプさん

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

仮面ライダーオーズに変身する青年とハートキャッチプリキュア達との物語。

ストーリーはほぼ本編通りだったりする（なお、ヤンデレ化したプリキュア達が出てくるしプリキュア達はかなり主人公に対してデレます）

イメージOP Anything Goes!

イメージ EDハートキャッチパラダイス

目次

第1話プロローグ

プロローグ 1

1

第1話プロローグ

プロローグ 1

とある住宅街のマンションの一室にとある青年が部屋を借りた。その青年は年齢が高校2年生で、服装は青色の半袖のジャケットとスポーツ用の半ズボンを履いていた。雑に登山用とも思えるような大きな鞆をベッドの横に置いた。鞆の中から取り出したのは、3つのメダルのようなものを入れることができるドライバーとドライバーに入れるような黒いメダルホルダーを取り出した。

『はあ。』

ドライバーとメダルホルダーを手に持ちながら青年はため息をついた。そもそも青年にとってこのドライバーとメダルホルダーはたまたま見つけてしまったモノ、だから使い方もわからない。メダルホルダーを開ける青年。そこには数多のメダルが入っていた。

ピンポーン

家のチャイムが鳴る。青年はドライバーとメダルホルダーをベッドの上に置いて扉のほうに向かう。扉を開くと配達員さんが立っており、荷物を詰めたダンボールが届

く、青年は感謝を伝え、扉を閉じ、ベッドの置いてある部屋でダンボールを開けた。ダンボールの中身は服や調理器具などの生活必需品であった。青年は、生活必需品を配置していく。配置には約2時間程かかったが、青年にとつて最高の部屋が完成した。ベッドのすぐ隣にある鞆を背中に背負つて買い物に出かけた。

『はあ、こんなもんか。』

青年は買い物袋がパンパンになるまで買い物をしており、財布の中身がとても軽くなつていた。買い物からの帰り道HANASAKIフラワーSHOPという花屋を見かけたが、特に買うようなものもなく、そのまま家に帰った。その後その日はご飯を食べて風呂に入つてそのまま青年は寝たのであった。翌日昼頃に目が覚めた青年、引越など疲れていたのだろう12時間ほど眠っていた。起きてから青年はレンチンで、できるハンバーガーを3つほど温め、朝飯として食べた。

『はあ美味しかった。』

青年は、朝飯を食べた後、また出かけ始めた今日は昨日と違い目的があるわけでもないが、ただ引越しが済んだ直後なので町をぶらぶらと散策しようと思つたようだ。青年は鞆の中にメダルホルダーとドライバーを入れ、鞆を持ち外に出てぶらぶらと街を散策し始めていた。青年が街の中にある公園のベンチで休んでいると、道路にミイラのような怪人屑ヤミーが現れる。青年はドライバーとメダルホルダーを鞆から取り出し、ド

ライバーを腰に巻く。

『はあやるしかないか。』

ため息を吐いてからメダルホルダーから赤と黄と緑の3枚のメダルを取り出す。そしてその3枚のメダルをドライバーの窪みに入れる。

『変身。』

青年はそう言うと、ドライバーの左隣にしまつてあるスキヤナーを抜いてドライバーを斜めに倒しスキヤナーでメダルを読み込む。

『タカー・トラーパー・バッター・タ・ト・バ、タトバ、タ・ト・バー』

青年の体の周りからメダルのようなものが回転し、青年の前で赤、黄、緑の3色のメダルのようなものが青年の体を包み込んだ。顔の部分が赤いタカベツド、胴体が黄色いトラアーム、足が緑のバッタレツグの仮面ライダー、仮面ライダーオーズ　タトバコンボに青年は変身した。オーズは専用武器メダジャリバーを持ちながら戦闘を始める。メダジャリバーが、屑ヤミーに当たると屑ヤミーはセルメダルを落とし爆散する。その全ての屑ヤミーが爆散すると、見合いを見てかクワガタのような頭部カマキリのような腕バッタのような脚を持った怪人が現れる。現れた怪人に対しオーズは、メダジャリバーを向け屑ヤミーが爆散した際に落とししたセルメダルをメダジャリバーの中に入れる。

『お前がヤミーを産み出したグリードってやつか?』

『ああそうだ俺はグリードのウヴァ、800年前の怨み今ここでオーズお前を倒すことで晴らされてもらう。』

ウヴァは、バツタのような脚でオーズ側に飛んで移動する。オーズは飛んできたウヴァに対しメダジャリバーで立ち向かう。ウヴァに向かいメダジャリバーにセルメダルを3枚入れたオーズ、スキヤナーをメダジャリバーの上からスキャンする。

『トリプル! スキヤニングチャージ!』

縦に持ったメダジャリバーから空間を切り裂く程の強い斬撃が放たれる。ウヴァに直撃しその場で煙がもくもくと上がっている。勝ちを確信したオーズの前に煙の中からダメージを食らっていないウヴァが現れる。

『何?!』

オーズは、斬撃が喰らわないことに驚く。オーズは屑ヤミーよりかは強いだろうと思っただけだが、ここまでウヴァが強いとは全く思っていなかったのである。ウヴァは、オーズの持っていたメダルホルダーの中から、スーパークワガタ、スーパークアマキリ、スーパバツタの3枚を奪い取り、自分の体の中に入れた。

『後3枚、それで俺はスーパ完全体になる。』

ウヴァは、そう言うと、その場を離れた。オーズは変身を解いた。

『やっぱお父さんのようにはできないか…。』

少し落ち込んでからその場を離れていった。それをハイライトの無い目で見ていた制服姿の女の子が一人いた。